

Home with a Story 04

- 家づくりを物語に -



[中野市／T様邸]

余白の家

「使い方が決まったフツウの家にしたくない」
家に余白があるからこそ豊かな暮らしが生まれる。
コンパクトな平屋でありながら
家族が日々、思い思いの場所でくつろぐことができる家。

柱や梁を現し天井も一部板張りに。
木と珪藻土のバランスが良い空間。

予め置く家電を想定し、最小限にまと
めたキッチンまわり。冷蔵庫脇には、
大きな食品庫も備える。

CUBE型キッチンだから、家族が
キッチンを自然と囲み集まる。





メリハリのある窓計画。南東のブドウ畑に向けて開口を大きくした。土間サロンからフラットにつながるテラスは、BBQをしたり庭作業の合間にお茶を飲んだり使い勝手が良い。薪を運び入れる動線も抜群。



キッチン背面の棚はクリ材。お気に入りの小物やキッチンツールが並ぶ。(上)
リモコンは可愛い小さいなニッチ棚に収めた。我が家だけのデザインにも愛着が湧く。(中)
室内干しができるランドリールームは、日当たりの良い南面に。そのままデッキに出て外干しもできる。家事動線の良さも、平屋ならではの。(下)



owner's voice

元々はこの場所にあった実家の離れをリフォームして暮らしており、不便はないものの、どこかアパートに住んでいるような感じがしていました。たまたまふらっと見に行った長野中央展示場の土間サロン。夫婦共に気に入ってしまい、思い切って建替えを決意しました。

具体的なオーダーは2つ、平屋であること。今の25坪より、もっと小さくても良いと思っていました。なるべくシンプルでミニマルな暮らしを目指していました。もう1つ、家族みんなで料理ができるCUBEキッチンを入れること。「2LDK、ダイニングテーブルやソファを置く」というようなよくある間取りは嫌だったので、「フツウの家、使い方が決まった家にしたくない」とだけ伝えてプロにお任せしました。担当スタッフはむしろそれを喜んでくれて様々な面白いプランを提案してくれました。家族が思い思いの場所に腰かけ、くつろぐことが出来る空間が気に入っています。広い土間サロンや二段下がりリビング空間も「使い方を決めていない」ので、それが余白のように感じ、自由に過ごせるのが楽しいです。唯一のオーダー、CUBEキッチンでは子供たちと色々な話をしながら料理したり、薪ストーブのオープンでパンを焼いたり…

この家で“おうち時間”を満喫しています。





土間サロンは南面の開口をぐっと抑え地窓のみに。リビングとの段差にもこだわった。土間からリビングに上がるにも負担が少なく、腰かけて過ごすにもちょうど良い高さに設定した。(左上)

「ビットリビングにゴロンとなりふと見上げると、真っ白な壁なんだけど、なんかカッコいいと思う」と奥様が話す。平屋ワンフロアでも、段差が活きて空間が単調にならない。(右上)

平屋ならではのロフトスペースは、2人の娘さんの場所。秘密部屋のように楽しい。(下)





ロフトスペースとの行き来には、梯子ではなく階段をつくった。大きな荷物を運ぶのにも安心感がある。
コンパクトな平屋だから、家族がどこに居ても気配を感じ、コミュニケーションが取りやすい。

竣工 2021年10月
敷地面積 316㎡（96坪）
延床面積 84㎡（25坪）
家族構成 夫婦・娘さん2人

Home with a Story 05

- 家づくりを物語に -



[南信州／H様邸]

キャンプするように人生を遊ぶ

東に南アルプス、西に中央アルプスが望める
お気に入りの景色に、テントを張ったような外観の平屋。
夫婦の描く「小屋っぽさ」を、フォルムや素材で表し、
小屋ではない伸び伸びした暮らしができる家。



黒色の天然土を混ぜた
ジョリパッド仕上げ

ウッドデッキとフラットにつながる大
きな窓から、南アルプスを眺める。

薪ストーブはAGNI-CC。背面の板
張りにブルステイン材を使用。



大きな窓を設けて光をたっぷり取り込むキッチン。使い慣れたギアが並び、キャンプで使うものを家でも使う。ものが少なくて済むので合理的。(上)
 リビングの大きな掃き出し窓の先には、ご主人が自ら手掛けた10畳を超える広さのウッドデッキ。南アルプスを眺めながらの休憩タイムが格別と奥様。
 (下)

玄関正面の壁も赤松のブルーステイン材をつかい、印象的に。玄関脇には大きなシューズクロークを設けた。(上)
 アカマツの梁にハンモックを吊るし、愛犬と一緒にくつろぐ。(中)
 洗濯、干す、たたむ、収納がスムーズにできるランドリールーム。壁には水に強いサワラを使用。近くにはWICもあり、洗濯動線がワンフロアで完結するの小平屋の強み。(下)



owner's voice

もともと愛知県に住んでおり、年に4、5回は長野県南部のキャンプ場に足を運んでいた私たち。山を下り、伊那谷の中へ身を置いてみると、南アルプスと中央アルプスがそびえていました。この南信州ならではの景色が格別に気に入り、さっそく町の提供する移住体験へ。半年間で移住の気持ちも固まり、いつか家を建てるつもりで、仮住まいからスタートしました。

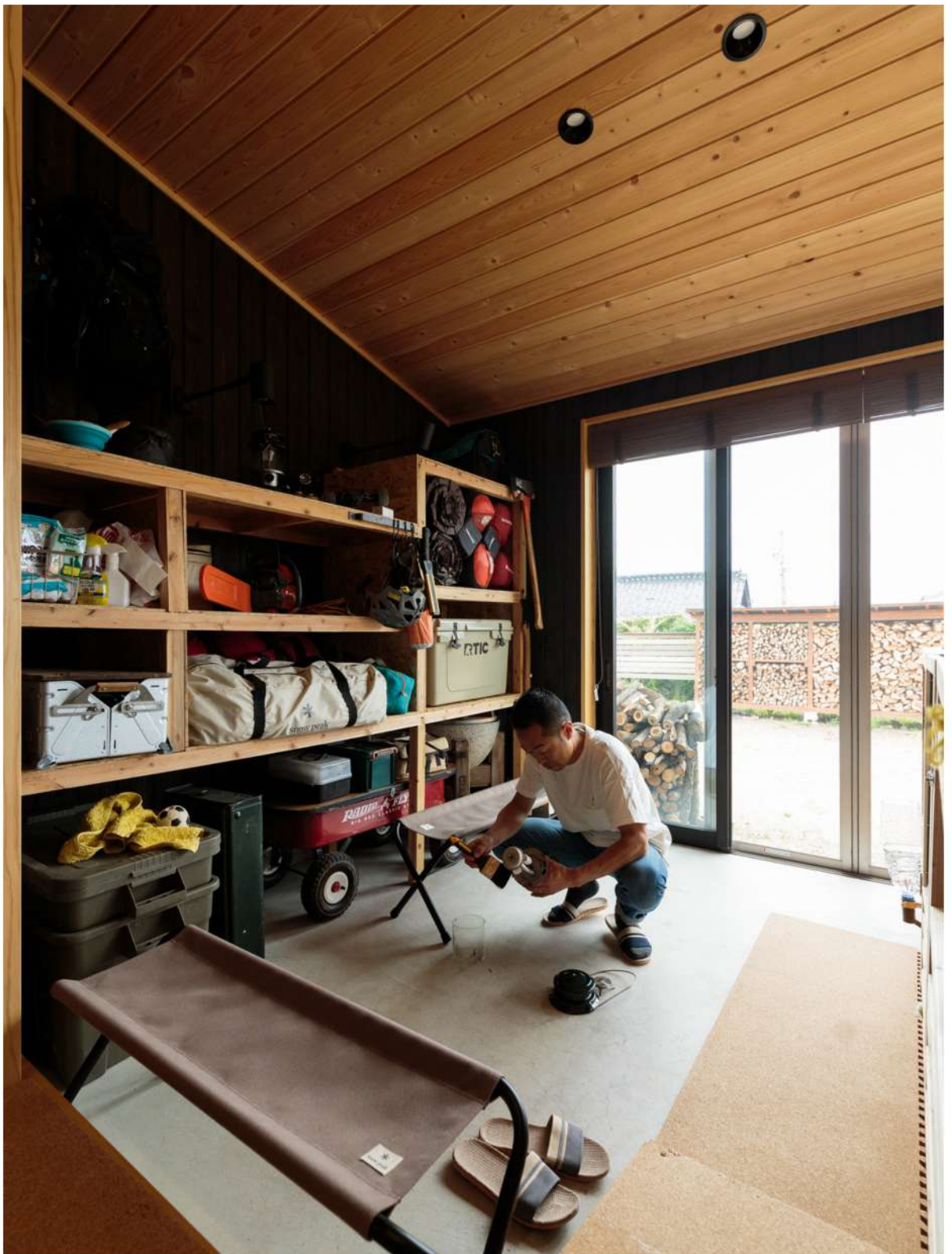
担当してくれた営業スタッフは、「普通の家だったら要らない」と考えていた私たちの思いに寄り添って、土地探しからサポートしてくれました。私たちが描く「小屋っぽい」家。自然の中に身を置き、自然との一体感を楽しむキャンプのような暮らしを実現するのに、土と近い平屋はマストだったように思います。

家にも景色に溶け込むような要素をたくさん取り入れ、外壁の板張りもその一つです。また、本物の木、なおかつ県産材を積極的に使い、山を良くしているという考えにも共感しました。今は新しい家族（バーニーズ・マウンテンドッグ）も迎え、毎日キャンプしているような感覚で過ごしています。



タープを張ったように屋根がかかる平屋で、広いデッキ部分はテントの前室みたい。第2のリビングとして積極的に活用できそう。(上)
天井はサワラ、柱はヒノキ、梁がアカマツ、床がカラマツ。すべて長野県産材を使用。(中)
畳コーナーはモダンな雰囲気。窓からは中央アルプス南部の山々を望む。(下)





土間サロンには、夫婦共通の趣味のキャンプギアを置いた。フィールドに出るときも帰ってきたときも楽ちん。床がコンクリートなのでギアのメンテナンスにも好都合。ブラックの色味に仕上げた板張りの壁に、DIYで棚を設置した。

竣工 2021年11月
敷地面積 500㎡（151坪）
延床面積 93㎡（28坪）
家族構成 夫婦・犬

Home with a Story 06

- 家づくりを物語に -



[原村／N様邸]

八ヶ岳の森に暮らす

野鳥のさえずりに誘われ、ウッドデッキへ。
ジョウビタキが軒に巣をつくり、卵が生まれヒナが育ち、巣立っていった。
森に溶け込む暮らしの中で、自然の美しさやありがたみを感じる日々。

リビングの斜天井はスギ板張り。
空間デザインに変化が生まれる。

森に向かい大きく開く窓。
四季折々の変化を楽しむ。

ビットリビングに造作のL字ソファを。
食事の空間とくつろぎの空間をほどよく
分ける。

ビットリビングから更に一段
下がる土間サロン。土に近く
森に溶け込むような感覚に。



こだわりの造作キッチン、松本市の家具工房・アトリエm4制作。松本展示場のCube型キッチンを参考にしつつ、オリジナルデザインに。カウンター側の引き出し中にはワイングラスが並ぶ。グラスの高さに合わせてサイズをオーダーした。



スクリーンを下ろせばいつでもホームシアターが楽しめる。ソファとの距離感や、窓枠にピッタリ合うスクリーンサイズまでこだわり抜いた。スピーカーも4台設置し、音に包み込まれるような体験も。(上)土間サロンには薪ストーブを。すぐに庭へアクセスできるので、薪の運搬にも便利。(中)ヒノキの板張りが美しい浴室。メンテナンス性も考慮し、浴槽のまわりはタイル貼りに。(下)



owner's voice

私たちは、家建てるのが目的ではなく、そこに住んでからの暮らしや人生を充実させたい、と強く思っていました。退職後の日々も見据えた暮らしのイメージが明確にあり、それを実現するために原村の森に移り住み、平屋の住まいを建てました。

暮らし始めると、近くに鹿が出たり、庭をタヌキが歩いていたり。野鳥のさえずりがとても近く、毎日聞けるのも癒されます。ジョウビタキが軒のくぼみに巣をつくり、子育てをして巣立っていったのも見届けました。巣立ちの日は感慨深かったですね。しっかり自然の恵みを感じながら暮らせる。良い土地に出会えたと思います。



夫婦ともお酒が好きで、様々な場面で楽しんでいます。来客も多いので、みんなでワイワイできるようにオープンなキッチンにしました。キッチンに立っていると、友人も自然にカウンターに座り、ワイン片手に話が弾みます。休日は主人がお寿司を握ったり、天ぷら職人になったりするので、カウンターでおもてなしを受けるのも楽しいですね。ホームシアターにもこだわり、視聴距離や窓枠に合うスクリーンサイズまで計算しました。ここでもワインを片手に、大好きな映画を満喫する時間が最高です。



平屋でも単調な空間にならないよう、土間サロン、ビットリビング、ダイニングキッチンに緩い段差を設けた。森に向かい段々と低くなり、自然との一体感を感じる。(上)
 ゲストルームは時に書斎、時に室内干しスペース、ハンモックに揺られるくつろぎ空間にも。家中どこからでも森の緑が楽しめる。(中)
 夏場の薪づくりも冬の楽しみに繋がっている。ご近所さんが軽トラを貸してくれて、薪運びを手伝ってくれるそう。そんな交流も信州ならではの。(下)





風景に溶け込む佇まいを意識した外観。アクセントに、ダークブラウンの板張りを施した。落ち着いたカラーは周りの木々と調和する。深い軒下には、縁側のように使えるウッドデッキを。

竣工 2023年11月
敷地面積 540㎡（163坪）
延床面積 98㎡（29坪）
家族構成 夫婦

Home with a Story 07

- 家づくりを物語に -



[東御市／H様邸]

田園にひらく家

田園風景に惚れ込み、この土地に暮らすことを決めた。
目の前で作られた新米、土鍋で炊き上げるご飯は格別に美味しい。
移住をしてから家庭菜園を始め、試行錯誤する日々。
信州での毎日が楽しい。



リビングと土間サロンの窓の高さを揃えている。ロールスクリーンの目隠しもこだわり。

南の大きな窓に、一目見て気に入った田園風景を映す。

土間サロンに置いたアウトドアチェアに座ると、リビング床と高さが合い居心地が良い。

床は赤松の無垢材。素足で気持ちが良い。



キッチンを中心に据えた間取り。広々とした空間で狭さを感じないため、3人一緒に料理をすることも多く、家族で過ごす大切な時間になっている。(上)
ご夫婦が並んで在宅ワークをする書斎は、建具を設けず半個室に。窓越しに田園風景を眺めながら快適なリモートワークが叶う。(下)



キッチンがPanasonic。三連コンロと奥行の広さにこだわり、使い勝手も抜群。ご主人は1日中キッチンに立つことも増えたそう。(上)
 シンプルな空間に浮かぶ太鼓梁は、ご家族が選木ツアーで選んだもの。景色を眺めながらハンモックヨガに集中。(中)
 リビングと庭を繋ぐ土間テラスに腰掛け、田園風景を眺めるゆったりとした時間。庭や畑を気軽に行き来できる便利さもある。(下)



owner's voice

元々は東京で、その後は妻の実家がある埼玉のマンションで子育てをしていました。ちょうどコロナ禍で夫婦共に在宅ワークに。リモートで仕事ができるのに、わざわざ都会の狭いマンションに居る必要がないのではと思い、地方移住を考え始めました。新幹線で埼玉や東京方面へアクセスしやすいエリアが良い、御代田町や佐久市の土地も調べていましたが、人気エリアだけあって、ピンとくる土地は無く…。そんな中出会った工房信州の家。土地ツアーの中で東御市を紹介してもらい、この土地に出会いました。平屋が建てられるだけの広さとこの景色。即決でした。

一番のお気に入りにはキッチン。広々した空間は3人で料理をしても狭さを感じないので、家族で過ごす大切な場所になっています。家を建ててから私(ご主人)は特にキッチンに立つ時間が増えました。試行錯誤中の家庭菜園で採れた野菜をそのまま使ったり、目の前の田んぼで作られた新米を購入し、毎日土鍋でご飯を炊いたり。キッチンに立つ時間が想像以上に楽しいんですね。リビングと一体感があるので、料理をしながら妻と子どもが遊ぶ様子が見えるし、さらにその先に広がる田園風景を眺めるのも最高です。





コンパクトで可愛いフォルムの薪ストーブは「AGNI HUTTE」。土間部分と炉壁はライトグレーのタイル貼り仕上げ。庭でBBQをするときにも重宝する土間空間。(左上)
 スッキリと整理されたWIC。たくさん収納スペースをつくるのではなく、本当に必要なものだけが置けるように考えられている。(右上)
 造作の洗面コーナーはシンプルながら、タイル貼りや丸い鏡でセンス良くまとめられている。(下)





せっかく信州に家を作るなら、平屋を。平屋が建てられるだけの広さとこの景色に惚れ込み即決した。
シンプルな住まいと暮らしに風景が映える。

竣工 2023年6月
敷地面積 522㎡（158坪）
延床面積 87㎡（26坪）
家族構成 夫婦・娘さん

あなたの
家づくり物語を
一緒に。



www.kobo-shinshu.com

◇他にもたくさんの実例をHPで公開中！

工房信州の家



株式会社 フォレストコーポレーション

〒396-0027 長野県伊那市ますみヶ丘7352-1

- 掲載の実例に関する情報は、取材・撮影時のものです。
- 印刷のため、実物とは多少異なる場合があります。
- 掲載の写真には、一部標準仕様以外のものが含まれる場合があります。

◇SNSで動画も公開中！ follow me ♪

